

大項目	読むこと
小項目	特殊音節の読み
タイトル (教材名)	この音 どの音？ (拗音)
目的 身につけてほしい力	拗音を適切に聞き取ることができる。 拗音の音と表記を一致させることができる。
教材の概要  材料 作り方 工夫点など  画像	
教材の使用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「●ゃ」「●ゅ」「●ょ」ごとに横一列に拗音の書かれたカードを子どもが並べる。(「あかさたな」順に右から左へ)</li> <li>② 指導者がいずれかの拗音を読みあげる (例えば「にゅ」)。</li> <li>③ 児童生徒は、読みあげられた拗音を指さし、指導者にカードを渡す (「にゅ」のカードを指さし、渡す)。</li> </ol>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が教材を手元で自ら操作することで、体験的な活動となり、特殊音節のルールを知ることができ、定着が図りやすい。</li> <li>・読みあげられた拗音を聞き取り、発音しながらカードを指さしする姿が見られました。</li> <li>・参考文献 「多層指導モデル MIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」(海津亜希子、学研、2010年)</li> </ul>